

I 計画(12. 公共施設) ①重要事項の解説

「9. 住宅・集合住宅施設」で2回以上繰り返し出題のある重要項目(H8～H27)は、下記の通りである。

(1) 学校

※過去に選択肢問題として19回出題有

- ・小学校は、**低学年**を総合教室型、**高学年**を特別教室型としている。
- ・**特別教室型**は、普通教科をクラスルームで行い、特別教科を専用教室で行う方式である。
- ・**教科教室型**は、全教科について専用の教室を設け、生徒が時間割に従って教室を移動する方式である。
- ・**チームティーチング**は、学習集団の大きさの変化に対応できるフレキシブルなオープンスペースを計画する。
- ・**プラトーン型**は、時間帯で普通教室と特別教室を使用するクラスに二分し、一定の時間ごとに入れ替える方式である。
- ・**総合教室型**は、教科ごとに教室をまとめる方式ではなく、1教室内で全ての教科を学習するものである
- ・図書室・メディアセンターは、棟の端などの静かな場所ではなく、利用しやすさから学校の**中心**に配置されている。

(2) 図書館

※過去に選択肢問題として14回出題有

- ・開架貸出室における中央部には、見通しを考慮し、**低書架**を用いた。
- ・開架閲覧室は、見通しをよくするために**ワンルーム**とし、家具等を用いて利用対象者別やテーマ別に分節した。
- ・広域参考図書館は、膨大な資料を保管することから、**閉架書庫**を設置するのが一般的である。
- ・地域図書館の**延べ面積**当たりの蔵書数は、**50冊/m²**程度である。
- ・地域図書館の開架書架スペースは、収容数を**170冊/m²以下**で計画する。
- ・**BDS**(ブックディテクションシステム)を採用し、利用者の私物を自由に館内に持ち込むことができるようにした。

(3) 病院

※過去に選択肢問題として11回出題有

- ・総合病院における1看護単位当たりの**病床数**は、内科や外科に比べて、産科や小児科のほうが少ない。
- ・総合病院における**ICU**の計画に当たり、一般病棟に比べて、病床まわりの面積にゆとりをもたせた。
- ・総合病院の計画において、延べ面積に対する外来部門の床面積の割合を、**15%**とした。
- ・200床の入院設備のある地域医療支援病院において、電気室・機械室の床面積の合計を、延べ面積の約**10%**とした。
- ・地域医療支援病院の計画において、**診療部門**を外来部門と病棟部門の間に配置した。

(4) 保育所

※過去に選択肢問題として10回出題有

- ・幼稚園において、3歳児学級の1人当たりの保育室の床面積は、4歳児又は5歳児の場合に比べて、**大きく**する。
- ・保育所の計画において、年齢の異なる幼児が**交流**できる場所として、工作室と図書コーナーを設けた。
- ・保育所においては、乳児と幼児とは活動能力が異なるので、生活空間を**分離**するほうがよい。
- ・保育所のほふく室の有効面積は、1人当たり**3.3m²**以上が必要である。
- ・保育所の幼児用の便所のブースは、安全の確認と指導に便利なように、仕切りや扉の高さを、**100cm**程度にした。
- ・便所は、年齢に応じて異なるタイプを計画し、1、2歳児用の便所では便器間の仕切りを設けず**オープン**なつくりとした。

(5) 美術館

※過去に選択肢問題として5回出題有

- ・自然採光を利用した展示室に、光量不足を補うための照明として**高演色蛍光灯**を設けた。
- ・美術館の展示物の損傷を防ぐため、**白熱灯**照明の場合には防熱フィルターや反射板を併用した。
- ・博物館の展示室において、展示物が創造された場所、時代と同じような光環境を再現する**照明計画**とした。

(6) 市庁舎

※過去に選択肢問題として3回出題有

- ・市庁舎において、建築物全体に占める窓口事務部門の床面積の比率は、**10%**程度である。